HATCH TECHNOLOGY NAGOYA 2020

CODE for JAPAN

HatchMeets説明会

2020/7/16

主催：名古屋市

アジェンダ

1. フィールド活用型社会実証の説明 13:00-13:10
2. HatchMeetsの進め方 13:10-13:20
3. 実証プロジェクトの推進 13:20-13:30
4. フィールドを使った具体例 13:30-13:40
5. 質疑応答 13:40-13:50

1. フィールド活用型社会実証の説明

- 名古屋市では先進技術を有する企業等の集積を図ることを目的に先進技術を活用した社会実証支援を積極的に行います。

Hatch Technology NAGOYA

- 課題提示型社会実証支援
- **フィールド活用型社会実証支援**

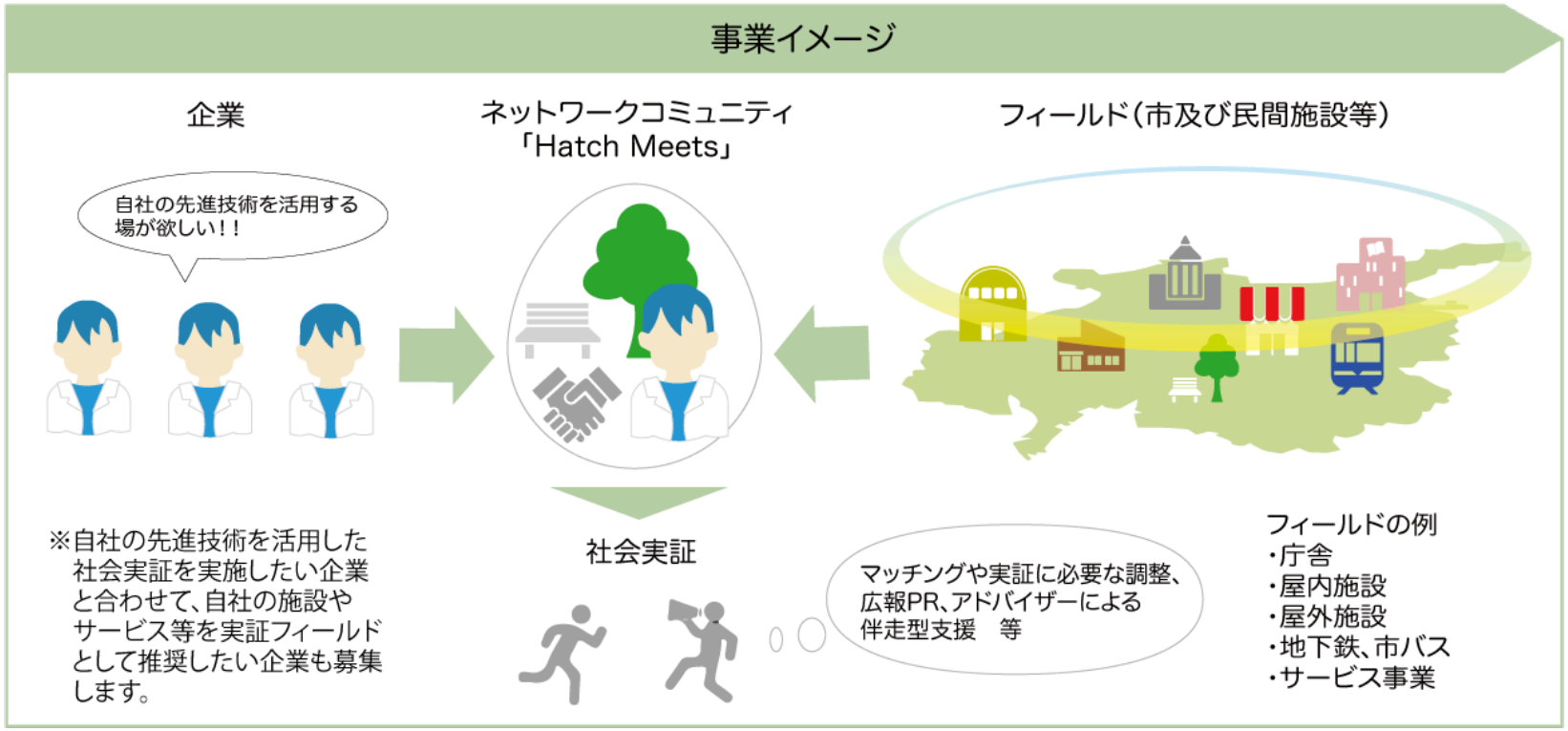
→産学官で立ち上げるネットワークコミュニティ「**Hatch Meets**」において、本市及び民間施設等を社会実証の場（フィールド）として活用し、先進技術を有する企業等の提案や実証ニーズを実現します。

「Hatch Meets」に参加していただける企業を募集します！！

・フィールドにおいて、自社の先進技術を活用した社会実証を実施したい企業等
・自社の施設やサービス等を実証のためのフィールドとして提供したい企業等

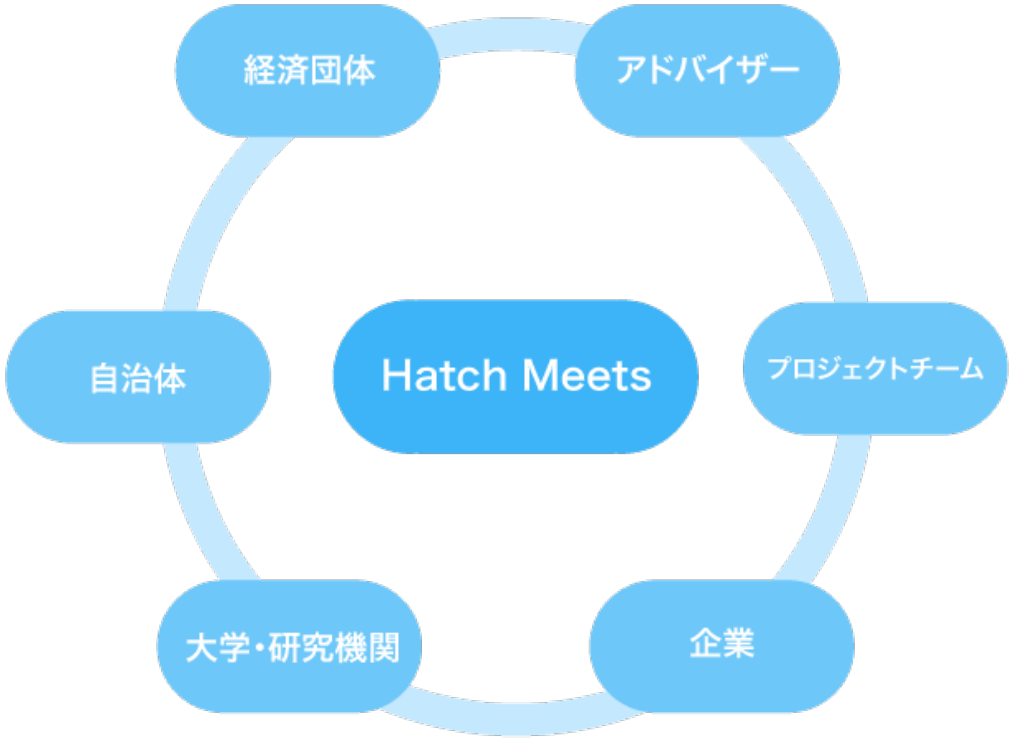
2. HatchMeetsの進め方

- HatchMeetsの目的
  - フィールド活用型社会実証支援では、名古屋市および民間施設等を社会実証フィールドとして活用するため、場の提供と課題の整理・解決をするネットワークコミュニティ「Hatch Meets(ハッチミーツ)」を産学官で立ち上げ、先進技術を有する企業等の提案や実証ニーズを実現します。



2. HatchMeetsの進め方

- HatchMeetsの体制
  - Hatch Meetsはフラットな体制で運営します。ミートアップを年６回程度、事務局からご案内をして開催する予定です。創出された実証プロジェクトのメンバーの方については、プロジェクトチームとしてHatch Meetsに参加していただきます。



本年度は、Code for Japanが
事務局を担当し、HatchMeetsの運営
およびプロジェクト支援を実施します。

2. HatchMeetsの進め方

- HatchMeets参加の際のルール
  - 参加者の交流やマッチングの中でプロジェクトの創出を進めます。ヒアリングやミートアップには是非参加してください。
  - Give & Takeの精神で、ともに考え、ともに作っていきましょう。
  - 担当者とはメール等で連絡がとれるようにしてください。
  - 集めた技術ニーズについては企業・団体・自治体のマッチング用に共有いたします。
  - 2020年度は、事務局で作成したスケジュールに沿ってHatch Meetsの中でプロジェクトの選出を行います。
  - 個別プロジェクト開始時に、プロジェクトごとに知財や実証の範囲等、進め方は相談します。
  - 相談や質問は、事務局にお問い合わせください。

2. HatchMeetsの進め方

- 全6回のHatchMeetsの内容

No.	打ち合わせ	内容	参加者	時期
1	第１回	【キックオフの回】フィールドごとの分科会の説明、マッチングの元となるニーズ内容を説明、企業間交流のミートアップを実施	会員全体	8/27 9:30-12:00 イノベーターズガレージ
2	第２回	【マッチングの回】企業がフィールドで確認したいことのとりまとめ、フィールド一覧の状況説明、プレゼンチーム候補の確認	PJ参加希望者	9月
3	第３回	【プレゼンとPJ決定の回】プロジェクト提案プレゼンテーション、社会実証プロジェクトの決定	会員全体	10月
4	第４回	【PJ進捗確認】プロジェクトマネジメントの会議（進捗状況確認会）、フィールド・企業の継続マッチング	PJ参加者	11月末
5	第５回	【PJ進捗確認】プロジェクトマネジメントの会議（進捗状況確認会）、フィールド・企業の継続マッチング	PJ参加者	1月
6	第６回	【今年度の報告】実証実験状況を会員に説明する	会員全体	3月

2. HatchMeetsの進め方

- アドバイザーの紹介　（スタートアップ支援）

関治之

(一社)Code for Japan代表理事。「テクノロジーで、地域をより住みやすく」をモットーに、会社の枠を超えて様々なコミュニティで活動。他、オープンソースGISの開発企業、合同会社 Georepublic Japan CEO及び、企業のオープンイノベーションを支援する株式会社HackCampの代表取締役社長も勤める。
神戸市のCINOや東京都のフェローとして自治体のスタートアップを支援中。

嬉野剛士

Code for AICHI 代表
JellyWare株式会社／クリエイティブディレクター
2017年に岡崎市職員の畫田とCode fot AICHIを立ち上げ。2018年には野外イベント「miraoto!」の中心メンバーとし「RESAS地方創生政策アイデアコンテスト 」優秀賞受賞。週末起業「StartupWeekend」でも名古屋、東京でオーガナイザーを務める。元エンジニアでもあり、フォトグラファー、デザイナー、映像クリエイターなど多方面で活動中。

2. HatchMeetsの進め方

- アドバイザーの紹介　（学識経験者）

白松俊

1976年千葉県生まれ。名古屋工業大学 准教授。京都大学大学院情報学研究科博士課程修了、博士（情報学）。
研究対象は、人々が協働・共創するようなコラボレーションを支援する情報技術。
特に、シビックテックやオープンデータ活用、議論支援などのシステムを研究開発中。
シビックテック団体Code for Nagoyaの名誉代表（代表経験者）の1人。

浦田真由

名古屋大学 大学院情報学研究科 社会情報学専攻 講師。博士（情報科学）。情報通信技術（ICT）がもたらす新しい社会の在り方について調査・研究を続けている。2017年より総務省地域情報化アドバイザー、2019年より内閣官房オープンデータ伝道師に任命され、愛知県内の自治体を中心としたオープンデータ推進やICT利活用を実践的に進めている。

鵜飼宏成

名古屋市立大学大学院教授(株)住信基礎研究所(現・三井住友トラスト基礎研究所)で複数の調査プロジェクトに関わり、愛知学院大学経営学部教授、地域連携センター所長を経て、2019年4月より名古屋市立大学大学院経済学研究科教授。同大学院経営者コースを担当。また、同大学・産学官共創イノベーションセンターにてNCU Action Doorsの推進責任者、文部科学省「持続可能な産学共同人材育成システム構築事業」実務家教員養成プログラムの名市大コンソーシアム実施責任者、2020年4月より副理事(収益事業・起業家教育)を兼務する。公職に、特定非営利活動法人起業支援ネット理事、一般社団法人中部圏地域創造ファンド理事がある。専門は、アントレプレナーシップ教育の研究と実践、起業家論、ベンチャービジネス論。

3. 実証プロジェクトの推進

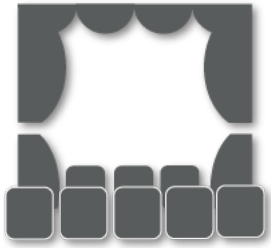
- 「Hatch Meets」の中で、実証プロジェクトを創出していきます。「Hatch Meets」では、次の流れでプロジェクトの創出・実証を進めます。
  - 10月までに最低1つの実証PJを選定し、その後も次年度につながるPJのマッチングを続けていきます。

Step1
「Hatch Meets」でワークショップ等を行い、フィールドと企業をマッチングする。

7月～9月

Step2
アイデアをブラッシュアップし、プレゼンを通じて実証プロジェクトを創出する。

10月～11月



Step3
実証プロジェクトに対し、必要な支援を行い対象のフィールドで実証する。

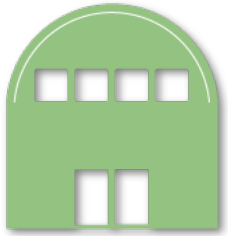
11月～3月

3. 実証プロジェクトの推進

- 実証フィールドの説明
  - 名古屋市が提供するフィールドは7つのジャンルがあります。
    ※このほかに民間企業等が提供するフィールドがあります。「Hatch Meets」参加時に実証ニーズをお聞きします。希望するフィールドにおいて実証できるかどうか「Hatch Meets」の中でマッチング・調整を行います（内容や時期によってはフィールドとして使用できない場合もありますのでご了承ください）。

自治体庁舎

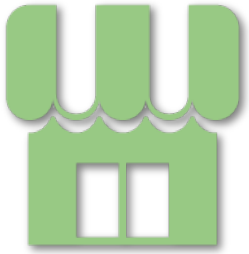
屋外施設



屋内施設

会議・展示・研修施設

交通系

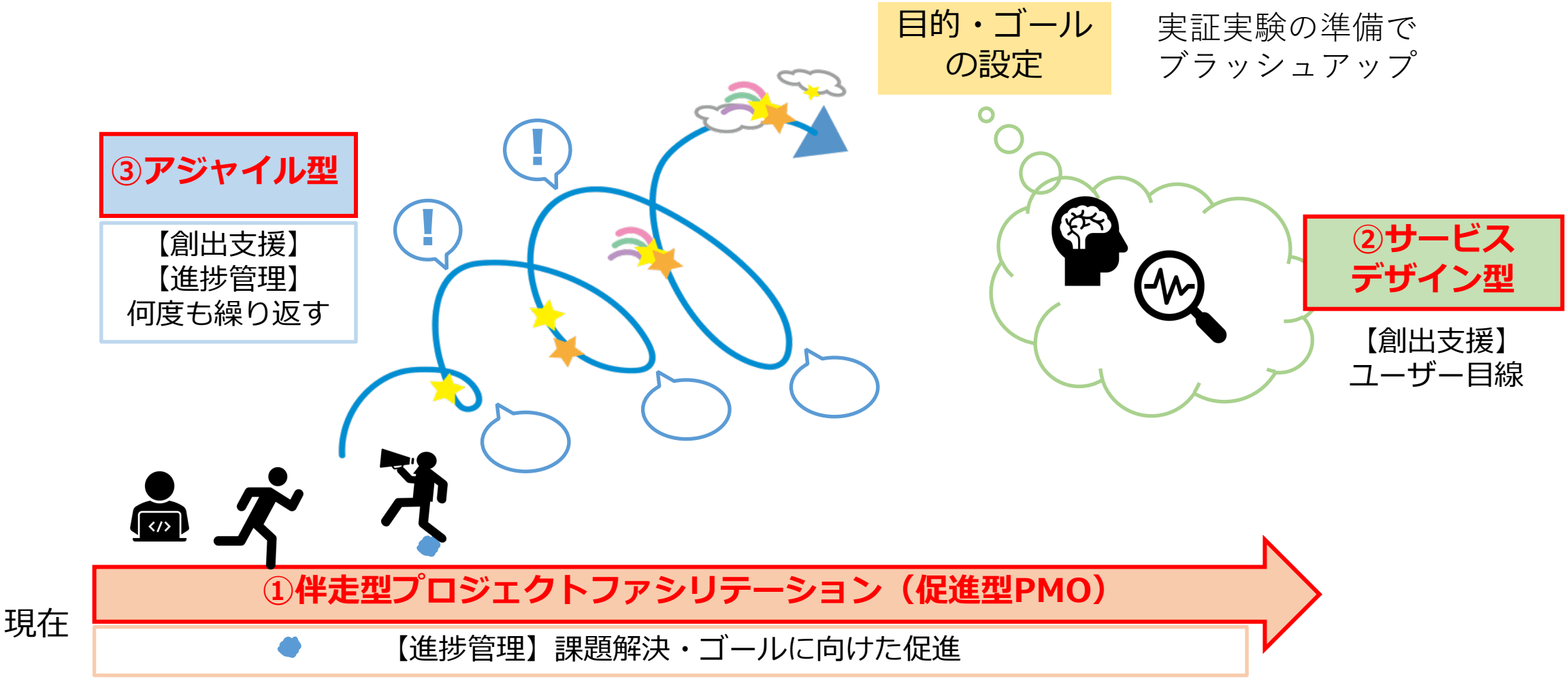


市街地

自治体サービス・その他

3. 実証プロジェクトの推進

- 実証プロジェクトは、協議会事務局で３つのプロジェクトマネジメント支援を通じて成功へと推進します。



4. 実証プロジェクトの推進

- 成果報告会
  - 名古屋市で開催しているフィールド活用社会実証事業は中間報告と最終報告を実施予定です。
  - 中間報告はCode for Japan Summit（名古屋オンライン開催）を予定
    - 昨年度の延べ1000名以上が参加したCode for Japan Summitで今年度の実証について状況を報告予定です。
  - 最終成果報告会は、東京と名古屋で開催予定
    場所については、下記のような場所を検討しています。
    - 名古屋市内： なごのキャンパス・イノベーターズガレージまたは市内大学
    - 東京：GovTech関係のイベントも開催されている東京ミッドタウン日比谷のBASE Qや永田町GRID

4. フィールドを使った具体例（1/3）

- 例えばこんな利用方法が考えられる

フィールド	利用方法例
名古屋市役所本庁舎・東庁舎・西庁舎 （自治体庁舎）	国指定重要文化財の本庁舎を３Dモデルとしてデジタルアーカイブし（特に普段未公開の正庁、時計塔等）、オープンデータとして利活用したり、今後デジタル会議の際に素材として利用できるようにする。また、プロジェクションマッピングの対象として利用することで夕方以降の観光地としての価値を増やす。また、庁舎内の清掃箇所の中で自動清掃、消毒できる範囲について、ロボットなどで対応する。 予めスマフォで行きたい部署を入力しておくと、各掲示板や階段などの分岐などでスマフォをクリックすることにより、床に行きたい部署への案内矢印がでることにより、来庁者をスムーズに案内できるようにする。
名古屋市中小企業振興会館 （会議･展示･研修施設）	来場者とロボット等との会話により、来場者の属性を自動で判定し、イベントや催事案内を提供することにより、案内係や受付の自動化とサービスの向上を図る。個人情報の取り扱いには注意が必要。

4. フィールドを使った具体例（2/3）

- 例えばこんな利用方法が考えられる

フィールド	利用方法例
名古屋市中央卸売市場本場（屋内施設・屋外施設）	不法投棄の監視や、早期発見の仕組みをセンサーやカメラなどで確認をすることで場内の衛生管理を高める。 業者として登録されている車両以外の車両が長期滞在したり、頻繁に出入りしている場合に管理会社や警備会社に情報を連絡することによって、盗難防止や治安を高める仕組みを導入する。
ナディアパーク　（共有部分・アトリウムなど）（屋内施設）	夜間や休館日ごとに清掃方法を区分けし、自動清掃・消毒できる分野をロボットなどで対応したり、ゴミの量を見える化することで、効率的な回収やゴミの出ないものの導入をできるようにする。 デザインセンタービルとビジネスセンタービルの来館者の属性や各施設の利用率を正確に掴むことにより、来館者の属性に応じた最適ルートを案内するほか、催事案内など館内情報の提供・PRを行うとともに、戦略的に告知を出したい層や、効果の出ていない部分の改善を図ることで施設の利用率を高める。

4. フィールドを使った具体例（2/3）

- 例えばこんな利用方法が考えられる

フィールド	利用方法例
東山動植物園 （屋外施設）	来園者250万人と敷地60ヘクタールを活かして、様々な情報提供及び誘導した際の人流データを検証し、ターゲットを想定した最適な情報発信方法を作り出す。
科学館 （会議･展示･研修施設）	事前登録しておいた顔認証を使った入館管理を行う。
旧那古野小学校施設（なごのキャンパス） （屋内施設・屋外施設）	小学校跡地でありながら、ベンチャー支援を行うインキュベーション施設であるという点を生かし、 グラウンドを利用した広い面積を必要とする実験や、体育館や廊下を利用した室内空間における実験、または多くの人が出入りするため導線を利用した実験など、幅広くご利用いただけます。 なごのキャンパス自体、多くのベンチャー企業・新規事業開発担当の方にご入居いただいているため、実験中・実験後にも活きる施設であるといえます。

5. 質疑応答

Q:　名古屋市外の企業・団体の申し込みも可能ですか?

A:　HatchMeetsにオンラインか現地で参加いただけるのであれば可能です。

Q:　協議会に参加するのに参加費は必要ですか?

A:　必要ありません。

HatchMeets